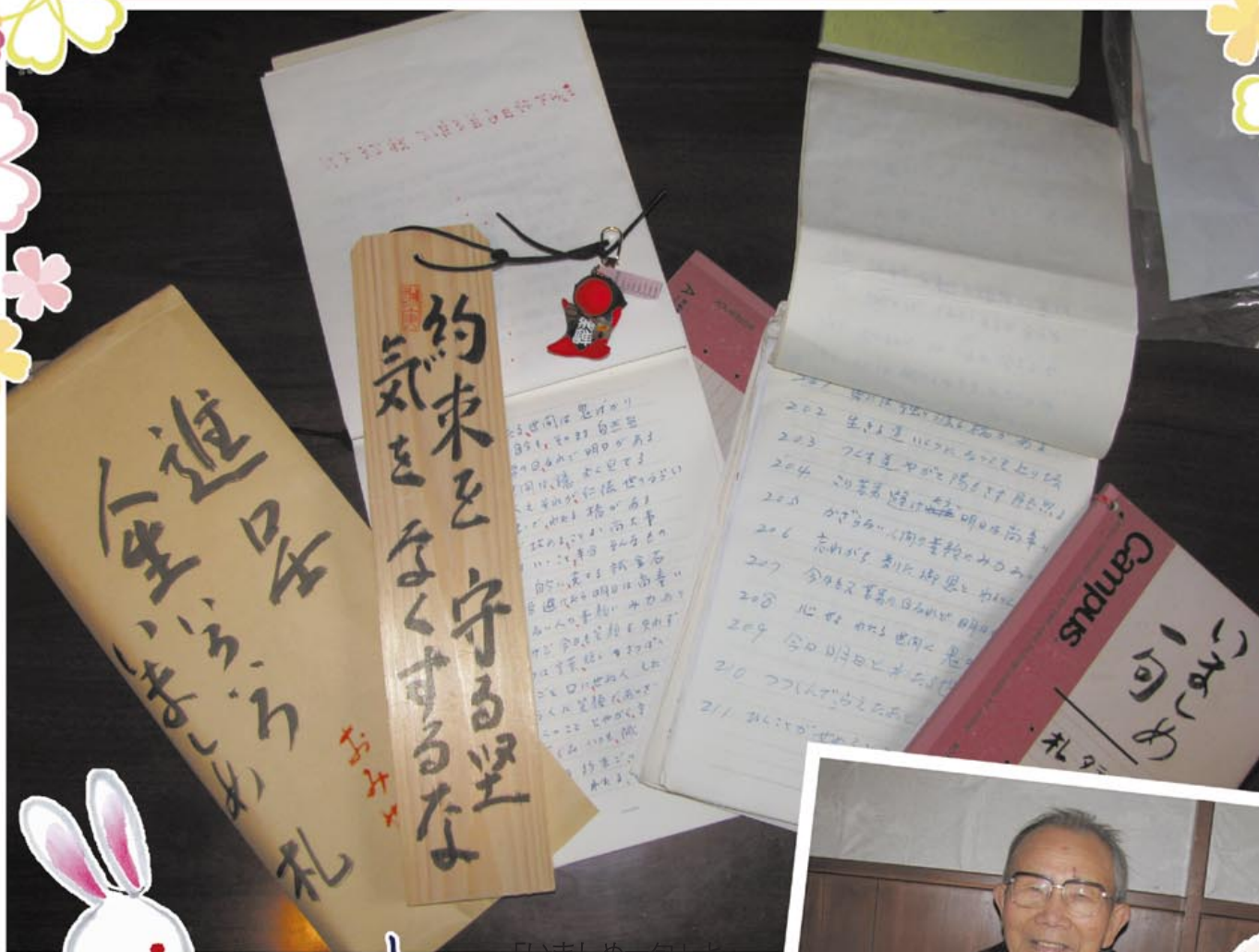


福祉

NO.44

平成23年1月1日発行



「いまじめ一町」と
下田久太郎さん

主な内容

- 新年を迎え ごあいさつ 2
- 福祉意見発表応募優秀作品 3~5
- たすけあい募金・出前講座 6
- 各種相談事業等の予定 7
- いきいきサロン・サロン助成金・寄付御礼 8

■発行／飛騨市社会福祉協議会 〒509-4221 飛騨市古川町若宮二丁目1番66号
古川町総合会館内 TEL<0577>73-3214

■URL : www.17.ocn.ne.jp/~hfukushi E-mail: hidasyakyo@cocoa.ocn.ne.jp

■印刷／毎日印刷社 〒506-1161 飛騨市神岡町船津1152番地1 TEL<0578>82-0447

*この機関誌は、赤い羽根共同募金の配分により発行しています



愛ちゃんと 希望くん

謹賀新年

新規事業による 事業基盤の強化を目指して

飛騨市社会福祉協議会

会長 樹下 宣一



市民の皆様、あけましておめでとうございます。

日頃は社会福祉事業の推進に温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

今年は、当社会福祉協議会も合併から八年を迎えるとともに、地域福祉を推進するための具体的な行動計画である「飛騨市地域福祉活動計画」も四年目に入ることになります。

この計画の中には、三項目の基本目標が定められております。この目標を目指して社協の職員が中心となり、行政をはじめ関係機関と連携を保ちながら、各地域間のバランスなどを十分考慮し、どの地域にも行き届く温かい福祉の風を送るよう、多くの事業は常に見直しを行い適時適

切な福祉ニーズへの対応に日夜努力を重ねております。

中でも、活動計画による市民の意識調査では、「一人暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」が圧倒的に多く、次いで「子育て支援」「青少年の健全育成」「障がい者支援」となっていますが、これらへの福祉サービス等の積極的な推進を図らなければならな

いと痛感しています。最近、新たな社会問題として、全国的に高齢者の孤独死や児童虐待が起きていますが、飛騨市においても地域の安全と安心を守るため、法律や公的な取り決めを超えた活動を各地域の代表者や民生委員児童委員、各種ボランティア団体の方々と一層連携を密にして取り組んでいるところであります。

昨年十一月の「飛騨市健康と福祉のつどい」でも、各中学校の代表五名の生徒が、福祉の体験学習を通じて、将来の生き方や希望・夢そして福祉の大切さを力強く発表してくれました。拝聴して感動するともに、胸が熱くなりました。また、

各小学校六名の代表による福祉標語も寄せられ、温かい福祉の心を持った小中学生が育っていることをうれしく思いました。

飛騨市社協の新規事業として、認知症、知的障がい、精神障がい等の理由で判断能力の不十分な方々を保護し、支援する「成年後見事業」を飛騨市とタイアップして取り入れて

表紙の方について

下田久太郎さん（古川町）

下田さんは、今年で満九十歳の大変お元気な方で、古川町数河にご夫婦で住んでみえます。大正十二年に古川町数河にお生まれになりました。昭和十七年に徴兵を受け、戦争を体験され、衛生兵として、中国・満州へ従軍され命を落とすような危険な任務もあったそうです。大陸で終戦を迎え、命からがら日本へ帰ってこられたそうです。数河でも、戦争の話ができる高齢者が二人程になったと残念がっておられました。

三人の子に恵まれ、県内や市内に住んでいらつしやるとのこと、近郊の方は週に一回ほど様子を見に来て下さるそうで、昔から家族の絆を大切にされておられ、「制度を使って高齢者を守ることも大切でありがたいことだけれども、家族同士が助け

まいます。この他、飛騨市社協の業務運営能力を高めるための組織の強化についても、将来を展望して、事業基盤の強化に合わせ財政基盤の強化に対する努力を続けてまいりたいと考えております。

これからも、市民の皆様方や住民の皆様方の前向きな協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

合うことが一番だと思っている。そういう気持ちでいると、そういう家族になってくる、接して話し合っていれば互いの愛情は育つものだ、できるだけそうしていきたい」と話されました。

下田さんは、平成十六年ころから、人の道徳心が薄れていくことを気に掛けられ、少しでも道徳を尊重して良い世の中になってほしいと、心が緩んだときに戒める言葉をヒノキの板に筆で描いた「いましめ一句」を作って、各所で配布されています。これは、一つとして同じ言葉が無いもので、この言葉は思いついたものを記録しておき、板に書かれるそうです。すでに千八百枚を超えられ、目標は二千枚だそうです。板材の入手もなかなか難しくなってきたそうですが、できるだけ続けていきたいと話されました。

下田さん、いつまでもお元気でいてください。



宮川中学校二年

岩佐

佳穂

元気な電話



飛騨市健康と
福祉のつどいで
は、飛騨市内の
中学生による福

祉意見発表をしていただきました。

ここでは、12月号に引き続き意見発表していただいた作品を掲載させていただきます。

私の親戚には、一人暮らしをしているおばあちゃんがあります。よく家に電話してきて、たくさんのお話をしてくれます。でも、テレビに夢中になっている時や勉強に集中しているときなどにも電話をしてきて、少し困ることもあります。私は、どうしてそんなにいつも電話してくるのだろうと思っています。

そんなある日、先生から「給食ボランティアをやりませんか？」と、話がありました。すぐやりたいってわけでもなかったけど、ちょっとやってみてもいいかなと思い、参加を申し込みました。給食ボランティアというのは、給食を小、中学生で作って一人暮らしのお年寄りの家へ一軒一軒回って、給食を渡すというものでした。障害者学習センターにある調理場に集まって、みんなで栄養のバランスを考えた給食を作りました。出来た給食を持って一人暮らしのお年寄りの家へ行きました。

一人暮らしのお年寄りは、思った以上に多くみえて配達するのは大変でした。疲れていやだなと思ったけど、お弁当を渡すと笑顔で、「おいしそう、ありがとう。」と喜んで下さり、やったかいがあつて参加してよかったと思いました。

それから、毎年夏にある給食ボ

ランティアに積極的に参加していききました。毎年参加するたびに、お年寄りが笑顔になって下さりうれしかったです。

でも、今まで参加してきて思うことがあります。それは、お年寄りはうれしそうにお弁当を受け取ってくださっているけど、やっぱり家では一人でそのお弁当を食べてみえるのだということなんです。そう思うと、なんだか寂しく感じられます。

私の家族は、祖父、祖母、父、母、私達三人の合計七人です。いつも、一緒にご飯を食べています。家族みんなで食べるのにぎやかに会話がはずんで、楽しいです。けれども、一人暮らしのお年寄りは、会話もできず一人で食べてみえて、かわいそうだと思いました。そう思うと、親戚のおばあちゃんも一人で食べていて、寂しいんじゃないかなと思います。

学校の行事にお年寄りといふれあう会というのがあります。デイサービスセンターやしまはウスなどへ行き、合唱やゲーム、掃除などをします。そこでも、お年寄りの方はたくさんみえて、私達は一人一人のお年寄りとたくさんのお話をしました。お年寄りとの話で、良くでてくるのは、自分の昔の話なんです。また、

自分の家族の話をしてくださる人もみえました。自分の子供は、遠い都会に行ってしまった、家は一人だけという人もみえました。

確かに、最近はテレビなどでよく高齢者が一人で暮らしていることが、増えてきていると聞きます。それと、若い人達は、仕事などで地元を離れることが多くなってきていると聞きます。たぶんこれが原因で、一人暮らしのお年寄りが誰にも気付かれず、亡くなってしまい、数日後に遺体が見つかるという悲しい事件が絶えないのだなと思いました。こういったニュースを聞くと、私の親戚のおばあちゃんは大丈夫なのか心配になります。

そんなことを考えていたら、「プルプルプル」と、電話が鳴りました。出ると偶然にもそのおばあちゃんでした。私は思わずホッとしました。話の内容は相変わらず「今日は暑いな。」とか「勉強しとるか。」とか他愛もない話です。でも、こうやって話していると、さっきまでの心配な気持ちはなくなっていくきました。いつもだったら、くだらないことで電話しないですよ、とか心の中で思っていたけど、そのときは、「電話してくれてよかった。」と思いました。

このとき、初めて毎日何回も電話してくる理由がわかった気がしました。やっぱり一人では、寂しいからだと思います。一人暮らしのお年寄りには、寂しい思いをさせないことが大切だと知りました。

これからは、私もできるだけこちらから電話したいです。そして、「くだらないことで電話しないで。」と思わず、「今日もおばあちゃん元気だね。」と喜び、他愛もない話をいっぱいしたいです。

離れていても

神岡中学校三年

宮本 沙織

「ばあちゃん、私誰だか分かる？」祖母は「わかりません。」と言いました。私は、一瞬、悲しみよりも、その現実が信じられませんでした。その後にもものすごく後悔しました。

今年の四月頃に、祖母は施設に行きました。小二の時に、祖父が亡くなって、それから祖母は変わっていききました。病状が悪化していくと、ヒステリックになって、優しく注意などをしても、普段の祖母がまだ病気で戦っているのか、もがき苦しん

で、私にも怒鳴りつけてきた事がなんでしょうかあります。「殺してくれよ！」じたんだをふみながら、祖母に大声で言われた時、私は怖くなって、もう祖母と向き合うことができなくなりました。私がまだ小さかった頃は、よく一緒に近所の店に買い物に行ったり、散歩したりしました。私の家は、父も母も夜勤をしています。二人とも夜勤の日は、祖母が私と兄の夕食を作ってくれていました。でも、中学に入学した頃から、それもできなくなってきた、色々忙しく、父母両方がいつべんに夜勤に行けなくなりました。変化していく祖母を見て、私はどうすればいいか分からなくなりました。4月、家から施設にデイサービスで通っていた祖母が、とうとう施設に泊まりがけで世話にな



ることになりました。もう、そのころには、昔の祖母の姿はありませんでした。前のように私に怒鳴り散らすような姿はありませんでした。家から出たがって家族が見ていない間に町まで一人で出て行ってしまったことがあります。その時、私は学校へ行っていて状況が分からなかったけど、その日は雨が降っていて、祖母は傘を持たず、家が分からなくなっとうろついていたら、滑って転んだのか、町の中で倒れていて、救急車に運ばれたのです。それぐらい病気に苦しんでいたのです。そして、今年のお盆に祖母は家に一時的に帰ってきました。祖母は私のことを覚えていませんでした。

今、社会問題の一つに高齢者の孤独死の問題が増えています。私の祖母は、施設に入所して幸せだろうか。私は、孤独死よりは幸せだと思っています。家族に会えず、一人でむなしく誰にも気づかれずに死んでいく老人がいる。実際、祖母は施設に行っから、とても生々しく子供のようでした。外へ出たいけれど何かしでかしはしないかと監視され、昼は仕事や学校で家に誰もいない。接し方が分からない様な私達に怒鳴り散らすような生活よりも幸せそうに見える。祖母が私に会ったら絶対に思

出すような楽しい思い出を作っておけばよかった。病気なんかよりも大きな思い出を私の記憶が祖母から消えてしまいう前に作っておけばよかった。と、私はとても後悔しています。

だから私は、祖母につきっきりで話をしたり、お墓参りに行ったりしました。指相撲をしてあげて、祖母が勝つと、ニカツとまるで保育園児の様に笑う顔がとても好きになりました。今、私達が取り組むべき事は、孤独死を減らすことなどたくさんあります。私の祖母は離れた施設で暮らしていて、祖母の記憶の中に私はいないけれど、私は祖母との思い出を忘れるつもりはありません。これからも祖母との思い出を作っていきたいし、せめて、祖母も私に会った時だけは、またあの笑顔を見せて欲しいです。私との一瞬の楽しい思い出にして欲しいです。絶対に孤独死なんてさせたくないです。私は、祖母を施設に送ったことは後悔していません。家族と離れていても、施設の人たちと楽しく暮らしていいってほしいです。施設に入りたくても入ることができない人々が神岡に沢山いると、前にたんぼぼ苑で働いている人に聞きました。どこも部屋がいっぱいで、入れない。そんなことを言われて、追い返される家族が

いると思うと悲しいです。孤独死を減らすためにも、施設の対応や、家族の対応が必要だと思います。自分がもし、一人で誰にも気づかれずに死んでいくことになったら、その状況で私はきつと「誰かに会いたい」と感じると思います。孤独死は、その人の家族や、その人の近所に住んでいる人がその人に会いに行くことがないから起こることで、その人にしてみれば、とても悲しいことだと私は思います。祖母には、そんな人生の終わり方をさせたくないのので、できるだけたくさん祖母に会いに行きたいし、これからも祖母との楽しい思い出を私の記憶に刻みたいです。

兄を通して考える

山之村中学校三年

岩本 悠吾

これから、皆さんに僕と兄の話をお願いします。僕には、双子の兄がいます。兄は、じっくり時間をかけないとなかなか自分の考えがまとまらず、やることは他の人より時間がかかります。僕は手伝いたい気持ちになりますが、手を出さないようにしています。理由は、兄の為だからです。

僕たちは、今中学三年生です。あと五年もすると、社会人と呼ばれる年になります。そうになると、一人でも何もかもしないかなくてはなりません。今ここで僕が色々なことをすると、兄は一人でできることが少なくなってしまう。だから僕はできるだけ手を出さず、兄がやる姿を見守るようにしています。

例えば、僕たちは、部活でクロスカントリースキーをしています。冬になると、スキーの板にワックスを塗ります。ワックスには、大きく分けて、板を滑らせるものと滑り止めのものがあります。このワックスをうまく使い分けて、競技に参加します。ワックスには、とても多くの種類があります。また、雪質や気温、天候なども考えて、塗るワックスの種類や量を決めなければなりません。全員同じ時刻に塗り始めるのに、兄はいつも最後に塗り終わるので、時間が無い時は特に、自分も一緒に塗って塗りたくなります。でも、何にでも自分で一生懸命に取り組む兄に、「自分が手伝えば早く終わるから」と、軽い気持ちで手を出すことはないのだろうか。もし自分が兄だったら、どうだろう。みんなの前で僕が手伝えることは、兄が、一人でワックスを塗れないことを見せるこ



とになるのではないだろうか。

できないから、また遅いからといって、軽い気持ちで手伝えることはかえって兄にとっては迷惑なことです。兄は、生まれつき、左と比べて右手足の力が弱く、力のバランスに差があるために足もよく痛めます。だから、スキーのフォームはあまりよくありません。クロスカントリースキーは、アップダウンのある長いコースを走る競技です。

僕は、練習内容がきついとちょっと手を抜いてしまったり、自分の前を走る人と離れてしまうと「もうだめだ」とつい諦めたりしてしまいます。でも、兄は違います。練習でも大会でも、兄がゴールするのはいつも最後のあたりです。が、いつも一回一回の練習や大会では、全力で

取り組みます。自分が最下位で、前を走る人とどんなに離れていても、最後まで全力で走りきります。他人とどれだけ力の差が出て、兄は精一杯にやるのです。日頃兄は何も言いませんが、兄はそういう姿で僕に教えてくれています。

母の胎内にいるときから、そして、中学三年生になる今まで、ずっと何をやるにしても一緒でした。そして、両親も僕たちを決して差別することなく、平等に育ててくれました。僕たちには、もう一人、高校生の兄がいます。経済的に負担をかけるのですが、両親は三人ともに、クロスカントリースキーをさせてくれていました。この作文を書くまで、僕が得意なこと、苦しいことがあるように、兄にも得意なこと、苦しいことがあるから、それは兄の「個性」であると思っています。

兄を通して、考えることがあります。それは生まれつき苦しいことに対して、簡単に手伝わったり、口出しをしたりしないことです。本当にその人が望むことを、ちょっと立ち止まって考えることが必要です。困った人が安心して周りの人に「助けて!」と頼めるような社会を、僕たちが作っていかなければならないということです。



街頭募金にご協力をいただいた
市内各店舗（順不同）

- ◆JAひだ古川支店様 ◆JAひだ信包支店様
- ◆JAひだ杉崎支店様 ◆Aコープたかはら様
- ◆コメリ神岡店様 ◆シメノドラッグ様
- ◆パロー神岡店様 ◆駿河屋古川店様

歳末たすけあい募金

たくさんのあったかい気持ちをありがとうございます

平成22年度も歳末たすけあい募金にご協力いただきありがとうございました。

各行政区、自治会、振興会、町内会や、市内の法人様、店舗での募金箱設置、団体での募金活動や職域募金で、多くの募金をお寄せいただきました。

12月7日～12日にかけて市内各地で民生委員児童委員さんの協力により、街頭募金を実施させていただきました。

集められた尊い募金は、市内の方へ義援金として配分させていただくなどの事業を実施いたしました。募金額につきましては、確定次第紙面にてご報告させていただきます。



福祉出前講座

＜飛騨市立各小学校＞



去る11月26日、神岡小学校5年生を対象に、福祉体験学習、講演会を開催致しました。これは総合学習の授業の一環で、福祉について理解して頂くために、車いす体験、高齢者疑似体験、また杉原信太郎さんによる、福祉講演を聞いて頂きました。

「これからは、お年寄りや障がいのある方が困っていたら声をかけてあげたい」「車いすでの介助の大変さ、車いすに乗っている方の気持ちが分かった」といった感想が聞かれました。

また、12月8日には、古川小学校4年生、9日には、古川西小学校4年生を対象に福祉講演会を行いました。講師には、高山市在住の下梶宮子さんをお迎えし、点字についてのお話や、盲導犬と一緒に歩く姿、点字がついている食品のカップ、音の出る電卓・体温計、リングの皮むきなどを見せて頂きました。



＜鮎ノ瀬保育園＞

10月29日に、鮎ノ瀬保育園にて、社協職員による福祉出前講座を実施しました。これは、市立保育園保育士を対象に、障がい児保育を行うにあたっての心構えや、実際の支援方法について、職員の経験を基に、事例や、保育士の立場に立った「こんなとき、どうすればいい？」を交えながら説明しました。

障がい児保育を実施する中で、壁に当たることは当たり前、その時に一人で悩まず、他のベテラン障がい児担当保育士の動きを参考にすることや、教えようと思わず、良く観察・記録し、行動の要因を探るなど様々なアプローチから解決方法を探ることも大切なことと説明しました。

飛騨市社協では、このような職域の出前講座も実施しています。気軽にご相談ください。



盲導犬のお陰で、歩く喜び、出掛ける喜び、みんなと出会える喜びがあり、とても感謝していると話されました。また、児童からは、「実際、自分たちもアイマスク体験をして目の見えない怖さを知ったが、下梶さんの話を聞いて、自分たちと変わらない生活をしてみえる事に驚いた」と話していました。

各種相談事業等の予定

古川町・河合町
宮川町・神岡町

1月の予定	日付	事業名	時間	場所
	8日(土)	であい・サポートセンター	午後 2:00～4:00	ハートピア古川
	11日(火)	心配ごと相談	午前10:00～12:00	ハートピア古川
	12日(水)	心配ごと相談	午後 7:00～9:00	河合町公民館
		であい・サポートセンター	午後 1:00～4:00	神岡振興事務所
	14日(金)	心配ごと相談	午後 6:00～8:00	神岡振興事務所
	15日(土)	であい・サポートセンター	午後 6:00～8:00	ハートピア古川
	16日(日)	であい・サポートセンター	午後 6:00～8:00	神岡振興事務所
	20日(木)	無料法律相談	午後 1:30～4:30	ハートピア古川
	21日(金)	心配ごと相談	午後 1:00～3:00	宮川町保健センター
	22日(土)	であい・サポートセンター	午後 2:00～4:00	ハートピア古川
	23日(日)	心配ごと相談	午前10:00～12:00	神岡振興事務所
	25日(火)	心配ごと相談	午後 1:30～3:30	ハートピア古川

2月の予定	日付	事業名	時間	場所
	2日(水)	であい・サポートセンター	午後 1:00～4:00	神岡振興事務所
	9日(水)	心配ごと相談	午後 7:00～9:00	羽根地区公民館
	10日(木)	心配ごと相談	午前10:00～12:00	ハートピア古川
	11日(金)	心配ごと相談	午後 6:00～8:00	神岡振興事務所
	12日(土)	であい・サポートセンター	午後 2:00～4:00	ハートピア古川
	15日(火)	であい・サポートセンター	午後 6:00～8:00	ハートピア古川
	17日(木)	無料法律相談	午後 1:30～4:30	ハートピア古川
	18日(金)	心配ごと相談	午後 1:00～3:00	宮川町保健センター
	20日(日)	であい・サポートセンター	午後 6:00～8:00	神岡振興事務所
	25日(金)	心配ごと相談	午後 1:30～3:30	ハートピア古川
	26日(土)	であい・サポートセンター	午後 2:00～4:00	ハートピア古川
	27日(日)	心配ごと相談	午前10:00～12:00	神岡振興事務所

■無料法律相談

法的な悩み、トラブルなどをご相談いただけます。同じ相談内容は1人2回までとします。
1日6名まで、事前に予約が必要です。詳しくはお問い合わせください。

■心配ごと相談

日頃の悩み、近所トラブル、どこに相談していいかわからないことなどをご相談いただけます。
相談員は、民生児童委員、行政相談委員、人権擁護委員等です。予約は不要です。どの地区の相談所もご利用いただけます。詳しくはお問い合わせください。

■であい・サポートセンター

「結婚をしたいけど、出会いがない」「今年こそは…」とお考えの方は是非ご相談ください。経験豊富なサポーター（相談員）が相談を受け付けます。であい・イベントや独身者研修などの案内を携帯電話等のメールへ配信する「メール会員」も募集しています。詳しくはお問い合わせください。

ご予約
お問合せ

飛騨市社会福祉協議会 TEL 0577-73-3214



いきいきサロン なんてんの会 (打保サロン)



ふれあい・いきいきサロンは、地域住民の方が歩いて集まれる場所で、みんなで相談しながら内容を決めて運営していく、仲間づくりの活動です。飛騨市社会福祉協議会では、「サロンをやりたい。」という方のお手伝いをさせていただきます。助成制度もありますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

＜お問い合わせ＞ 飛騨市社会福祉協議会

TEL 0577-73-3214

このたび、宮川町で初めてふれあい・いきいきサロンが立ちあがりました。打保地区の方から11月に社会福祉協議会に相談があり、サロンについて説明をさせていただいたところ、とにかく集まっておしゃべりをしたいということで、毎月第2土曜日を基本として清水さん宅で月1回やってみようということになり、「なんてんの会」という名前になりました。

初回の12月11日は、10名が集まりおしゃべりを楽しむ中で、次月の実施日を決めましたが、祝日の話から四大節（四方節、紀元節、天長節、明治節）の話になり、誰ともなく歌い始めた紀元節の歌『♪雲にそびゆる高ちほの…』の大合唱になりました。「最近のことは覚えとらんけれど、昔のことはよう覚えとるなあ。」「1人では覚えていなくても、何人かいると覚えている部分をつなぎ合わせれるんやさ。」と楽しそうに話しておられました。



寄付御礼

飛騨市社会福祉協議会にご寄付いただきありがとうございます。頂戴した尊い浄財は、地域福祉のために有効に活用させていただきます。

(平成二十二年十一月二十一日～十二月二十日受付分)

井口 浩徳 様 (神岡町)

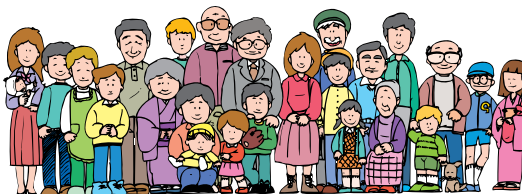
一〇〇、〇〇〇円

田高 百合子 様 (古川町)

五〇、〇〇〇円

ふれあいサロン助成金のご案内

あなたの地区でもふれあいサロンをやってみませんか？



飛騨市社会福祉協議会では、「ふれあい・いきいきサロン」活動を行っている団体への助成を行っています。

これは、地域で「ふれあい・いきいきサロン」活動を行っている、またはこれから始めようと考えておられる団体または個人に対して活動準備段階から助成するものです。

助成金額は、一回の活動につき千円と参加者数×30円で、ふれあい・いきいきサロン保険に加入することが条件となっています。詳しい内容については、飛騨市社会福祉協議会までお問い合わせください。

おばあちゃんの生き活き展

代表 関谷 操 様 (古川町)

二七、七八円

荒井 勇 様 (神岡町)

一〇〇、〇〇〇円

匿名 様 (古川町)

五〇、〇〇〇円

飛騨市職員親睦会 様

三六、三三九円

■特別会費 (追加分)

特別会費にご協力いただきありがとうございます。

宮前商店 様 (二日)

毎日印刷社 様 (二日)